

# 事務事業評価シート

年度

6

## 1. 基本情報

事業番号	050201020002	事務事業名	羅漢の里管理事業
まちづくり目標	暮らしを支える都市機能の整ったまち	施策	地域生産力の向上を目指すまちづくり
基本施策	農林水産業の持続的発展	取り組み事項	森林整備及び保全を図る
部名	建設農林部	課名	農林水産課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	建物及び附帯設備の修繕等に対応するほか、指定管理者と連携し、羅漢の里の適正かつ円滑な運営を図る。		
対象	市民		
目的	羅漢の里を整備、管理し、自然環境の中で憩いと安らぎの場を提供する。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画			
根拠法令			

## 2. 事業費

### (1) 歳出

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
正規職員数	0.15	0.2	0.2	0.19	0.19	0.19
会計年度任用職員数	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
人件費計	1,060,229	1,573,915	1,342,526	1,388,037	1,436,548	1,436,548
事業費計	10,443,284	81,871,836	17,634,732	34,731,212	19,927,000	19,927,000
フルコスト	11,503,513	83,445,751	18,977,258	36,119,249	21,363,548	21,363,548

### (2) 歳入

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
特定財源						
国庫支出金	0	40,000,000	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	4,000,000	7,000,000	25,000,000	10,000,000	10,000,000
フルコストー特定財源	11,503,513	39,445,751	11,977,258	11,119,249	11,363,548	11,363,548
事業費計ー特定財源	10,443,284	37,871,836	10,634,732	9,731,212	9,927,000	9,927,000

## 3. 評価指標

### (1) 活動指標

指標名	【量】羅漢の里の施設利用者数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値		11,500	12,300	13,500	14,370	15,200
単年度実績値	12,123	15,074	18,037	16,744		
前年比	-	124.34%	119.65%	92.83%	-	-
単年度達成率	-	131.07%	146.64%	124.02%	-	-

## (2)コスト指標

指標名1	利用者数一人当たりのフルコスト					
単位	人/円					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値		7,256.1523	1,542.8665	2,675.4999	1,486.677	1,405.4966
単年度実績値	948.8999	5,535.7404	1,052.1294	2,157.1458		

## 4. 事後評価

## (1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	自然と安らぎを与える場であり、自然と触れ合い親しめることもあり、市民のみならず、市外からもニーズが高い。	なし
有効性	B: 比較的有効である	指定管理者による自主事業が実施されることにより、更なる市民サービスの向上へと繋がっている。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	指定管理者制度を活用し、効率的に運営されている。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	令和6年度では、遊具の更新やドッグランの設置等を行ったが、コテージ等の施設の老朽化が進んでおり、これらについても引き続き計画的な修繕や更新を図っていく必要がある。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	指定管理者と月一回の報告会と年度毎に報告会を実施し、業務内容の確認を行っている。	なし

## (2) 総合評価

総合評価
A

## (3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	指定管理者との連携を強化するとともに、施設の改修や宿泊プランの増等により、利用者の増加を目指す。
休止・廃止となったときの影響	市民の憩いと安らぎの場が提供できず、観光の振興に寄与することも出来なくなる。

## (4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	施設の老朽化が課題であり、更新等を検討していく必要がある。